

マスコミ各位

2014年 11月 17日

首都圏に残る貴重な自然「多摩川河口干潟」に悪影響を及ぼす「羽田連絡道路」建設計画の見直しを求め、内閣府・国交省・神奈川県等に申し入れ

(公財)日本野鳥の会(事務局:東京、会長:柳生博 会員・サポーター数4万8千人)、(公財)世界自然保護基金ジャパン(WWF ジャパン、事務局:東京、会長:徳川恒孝 個人サポーター:約4万3千人、法人サポーター:約420社)、(公財)日本自然保護協会(事務局:東京、理事長:亀山章 会員数2万6千人)は、羽田空港と対岸の川崎市を結ぶ羽田連絡道路建設計画に対し、予定地の東京湾に残る貴重な自然干潟の一つである「多摩川河口干潟」の重要性を考慮し、干潟に直接的な影響を及ぼすと考えられる当計画の見直しと、自然環境の保全を目的とした公開の議論の場の開催、そして、後世に引き継ぐべき、地域の自然資源として「生物多様性保全エリア」として位置づけ整備することを盛り込んだ意見書を、内閣府、国土交通省、神奈川県、川崎市、羽田空港周辺・京浜臨海部連携強化推進委員会に提出しました。

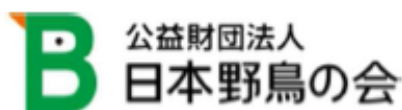
多摩川河口干潟は、埋め立て等により干潟の大部分が失われた東京湾奥部にあって、今なお良好で、かつ地域を特徴づける干潟生態系をとどめている場所です。プランクトンからゴカイ類、貝類、藻類、魚類、渡り鳥に至るまで、生き物同士のつながりが保たれています。また、この生態系があることにより、水質の浄化がされ、私たち人間にとっても有用な魚介類の稚仔魚が育っています。首都圏にありながらも、多くの人が本来の自然に触れられる場所であり、自然観察や散策等に利用し、さまざまな自然からの恵み(生態系サービス)を受けている場所です。

この多摩川河口干潟は、科学的側面からも重要で、確認されたレッドデータブック掲載種(鳥類)は、環境省基準で16種、神奈川県基準で37種に及び、(公財)山階鳥類研究所の資料による標識調査によれば、米国アラスカ州、豪州各地などから定期的にシギ・チドリ類が利用していることが確認されています。

多摩川河口干潟は、環境省の「日本の重要湿地500」及び「モニタリングサイト1000事業」におけるシギ・チドリ類調査地に、また国土交通省により策定された多摩川水系整備計画でも「生態系保持空間」に位置づけられ、国際的な鳥類保護組織であるバードライフ・インターナショナル

(BirdLife International)が選定した重要野鳥生息地(IBA: Important Bird Area; 「東京湾奥部」)にも指定されています。

多摩川河口干潟は、そこで暮らす多くの生きもの、そして、私たち人間にとっても高い価値を持った場所と位置づけられます。この羽田連絡道路の計画見直し(中止)、及び、自然環境の保全を目的とした公開の議論の場の開催、そして、後世に引き継ぐべき貴重な自然として、生物多様性保全エリアとして位置づけ、人々が永続的に利用し、心潤う空間とすることを求めています。



公益財団法人
日本自然保護協会
THE NATURE CONSERVATION SOCIETY OF JAPAN

<要望書提出先>

内閣総理大臣、国土交通大臣、神奈川県知事、川崎市長、羽田空港周辺・京浜臨海部連携強化推進委員会

<資料写真:提供 日本野鳥の会 神奈川支部>

<本件に関する連絡先>

- ・(公財)日本野鳥の会 自然保護室 TEL. 03-5436-2633(担当:葉山・山本)
- ・(公財)世界自然保護基金ジャパン 自然保護室 TEL. 03-3769-1713 (担当:前川)
- ・(公財)日本自然保護協会 保護・研究部 TEL. 03-3553-4103(担当:志村)



1. 多摩川河口干潟の環境写真_①



2. 多摩川河口干潟の環境写真_②



3. 多摩川河口干潟を代表する鳥類オオソリハシシギ